

1 部

学習サポート

各種申込締切について

『試験・スクーリング情報ブック』にてご確認ください。

- ・ 学年暦→2015年度版 p. 4～5 2016年度版 p. 4～5
- ・ 通信教育部カレンダー
 →2015年度版 p. 28～29 2016年度版 p. 6～9
- ・ 社会福祉士 演習・実習科目関連締切等
 →2015年度版 p. 42～44 2016年度版 p. 45～48
- ・ 精神保健福祉士 演習・実習科目関連締切等
 →2015年度版 p. 45～48 2016年度版 p. 49～51

3 / 26 ～ 5 / 6 の追加・変更点

追加・変更はございません。

通信教育部事務室移転のお知らせ

仙台駅東口キャンパス2階→**3階**（3 / 9より）

※そのため3 / 7～9は電話・メール・窓口対応を休止させていただきました。ご迷惑をおかけし、申し訳ございませんでした。

ご卒業おめでとうございます

教員 MESSAGE

通信教育部長・教授 寺下 明

東北福祉大学通信教育部を卒業される皆さん、ご卒業おめでとうございます。

日本の大学は、入るのはむずかしく、出るのはやさしいといわれます。しかし、大学通信教育はそう簡単にはいきません。皆さんの多くは、仕事を持ちながら、あるいは、家庭で子育てや家族の介護をしながら、通信教育の課程で学びました。単位を修得するために、レポートを書き、科目修了試験を受け、スクーリングに通わなければなりません。卒業するのは、並大抵ではなかったと思います。皆さんの強い意志と、これまでのご努力に心より敬意を表します。また、皆さんを暖かく支えてこられたご家族やご友人、職場の方々に対し、心より御礼申し上げます。

卒業 (commence) は、「新たな始まり」を意味します。卒業される皆さんは、これをもって本学での学びは一旦終了することになりますが、それぞれの人生における学びが終わるわけではありません。もちろん皆さんは、本学通信教育部において一定の学力を身につけたことと思います。しかし、それだけではまだ十分とはいえず、家庭や職場でこれからもさまざまな問題や試練に直面することになるでしょう。学習とは経験の変容を通じて知識が創造される過程だとしたら、これからの学びは、経験をその資源とすべきです。皆さんには学ぶことを絶え間なく続けてほしいと思います。

その背後には、日本社会の置かれている状況の変化があります。ここ十年くらいの傾向として、国際社会における我が国の地位の凋落がさまざまな点で指摘されてきました。とくに、グローバル化のなかでどう生き抜くか、天然資源の乏しい我が国は、マンパワーにその活路が求められていま

す。そのために、学問や教育の世界にも市場原理と新自由主義が色濃く反映し、競争に勝つための知識と技能を身につけることに重点がおかれています。大変に難しい問題ですが、本学の通信教育部も社会の大きな変動を見すえながら、多様な発展可能性を模索しているところでございます。

東北福祉大学は、仏教の教えである「行学一如」を建学の精神としています。行学一如とは、学問研究と実践実行は一体であるということです。理論は、経験や実践を通してつねに検証され、それがフィードバックされ、絶え間ない円環となります。こうした、理論と実践の融合による人間形成こそが、本学の教育理念であります。このような理念のもと、「人間はすべて生かされつつ、生かしつつ」を信条とし、目指すところは、個々人がそれぞれ持てる力を出し合い、互いに支え合いながら「自利利他円満」な社会を実現することにあります。人は、それぞれ違った才能をもっています。皆さんが、それぞれ自分の能力を生かしながら自己を実現し、仕事を通して社会に貢献してほしいと願っています。それが、本学の建学の精神を実現することと信じています。

ところで、ウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領は、「持続可能な社会」をテーマとしたリオ会議（2012）で、格差が広がり貧困が大きな問題となっている現代のグローバリズムに対して、次のようなスピーチをしています。「残酷な競争で成り立つ消費主義社会で、世界をよくしていこうという共存共栄な議論はできるのだろうか？・・・貧乏な人とは、少ししかものを持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことだ」。そして、「私たちは発展のために生まれてきたのではない、発展は人類に幸福をもたらすものでなくてはならない」ということを訴えています（『世界で一番貧しい大統領のスピーチ』汐文社）。

日本びいきでもあるムヒカ元大統領は、日本は進歩をとげた国だと賞賛しながらも、今日では産業社会に振り回されていて、本当に日本人が幸せかどうか疑問を抱いています。西洋の悪いところを真似して、日本人は

自らのアイデンティティーを忘れてしまったとも言っています。胸に刺さる言葉で、考えさせられる内容です。モノを多くは持たず、それ以上を望まなかったかつての日本人、「足るを知る」を美德とした文化は、大きな変貌をとげてしまったのです。たしかに今日の私たちは、いつの間にか、人間が生きる目的とは何か、何のために勉強をするのか、本当の幸せとは何か、を見失ってしまったような気がします。

江戸時代の教育について書かれた本を読んでもみますと、興味深いことに気がつきます。それは、日本各地に存在した寺子屋の多さです。現在の小学校数はおよそ2万1千校ですが、江戸時代末期にはこの数を優に超える寺子屋があったと推測されています。庶民の子どもが勉強して老中になれる時代ではないのにもかかわらず、全国津々浦々に寺子屋がありました。読み書き算を知らないと不利になります。しかし、寺子屋はそのような実利や立身出世のために勉強をするというより、他の大事な機能が期待されていたのではないのでしょうか。

江戸時代、庶民を教え導いた石田梅巖は、学問の目的は倫理観を育成することだといいました。『都鄙問答』のなかで、「仏陀や老子や荘子の教えも、いわば心を磨く材料」と述べています。勉強することには、学問によって自分を磨くことが期待されているのです。また、寺子屋で一般的に使われていたテキストでは、「人は裕福なのがえらいのではなく智慧があってこそ偉い」（『実語教』）などと書かれてあります。そこには、努力しても身分は変えられないが、勉強すれば立派な人間になれるという倫理観があります。この考えが寺子屋を通じて全国的に広く共有されていったのだと思います。

こうした初等教育の充実があって、我が国は明治維新の改革に成功してきました。しかし、その一方で、学問によって身を立て出世するという風潮をもたらしたことも事実です。この傾向は、戦後になって大学が大衆化した今日、その勢いをさらに増しているようにもみえます。いまこそ、学

問や勉強によって心を磨くという、私たちが大切にしてきた考えを思い起こすことが必要ではないでしょうか。皆さんは、これからもさらに、社会人として学び直しを続けられることでしょうか。ぜひ、学問を通じて心を磨き、人間として成長していただきたいと思います。

卒業される皆さんが通信教育の課程で学んだ成果は、今後の人生を生き抜くうえで大きな自信となるはずです。通信教育部では、皆さんを誇りに思い、これからもさまざまな立場で活躍されることを、ずっと応援しております。